

コメ作りを続けられる米価下落対策を 田中ははじめ市議代表質問②

田中ははじめ市議は11月議会代表質問で米価下落問題を上定昭仁市長に質しました。田中市議は、「おいしい新



市長に質問する田中ははじめ市議

米ができたが、今年ほど収穫を素直に喜ばない年はない」との声を紹介し、「①古米在庫60万トンとされる中で県内産米価もコシヒカリ、つや姫など軒並み昨年より2割下落している、②最も高いつや姫特別栽培米でも60kg当たり1万800円で、農水省調査でも1万5000円とされる生産コストに全く足りない、③コメ作り労働はタダ働きどころか、農家は身銭を切って米袋にお金を貼り付けて消費者に渡しているような状態。コメ作りが崩壊しかねない」の3点を指摘し、先進自治体で来年の水稲作付けの種苗費相当額を

10アール当たり3500円、上限100万円の補助制度を創設し農家から喜ばれている事例を紹介して市長に米価下落対策を求めました。これに対し上定市長は、「業務用米の需要減少が米価下落につながり、多くのコメ農家が厳しい状況にある」と認識を示し、「国の抜本的対策を全国市長会などを通じて求める。先進自治体での取り組みは適宜参考にす。本市では、農業経営における減収リスクに備える収入保険制度加入促進のため、保険料の2分の1補助の予算を今年度より計上した」と答えました。

原発早期稼働求める陳情に反対 松江市議会本会議にて たちばな市議

松江市議会は、11月議会最終日12月21日の本会議において、島根原発2号機の早期再稼働を求める陳情を採択しました。

継続審査となっていた早期稼働を求める陳情8件については採択、11月議会に提出された再稼働に反対もしくは慎重審査を求めるもの21件について不採択とした原発特別委員会の委員長報告に対して討論採決が行われたものです。共産党市議団たちはなふみ市

議が反対討論にたち「早期稼働をもとめる陳情が前提としている『新規制基準による適合性審査』が終わっていない段階で判断すべきでない。この段階で早期の稼働を求める陳情を採択することは、市民の命の軽視につながる」と主張しました。

また、再稼働に反対する21件の陳情は「避難計画の実効性に多くの疑問がある、福島事故の実態をもっと知ってほしい、2号機はプルサーマル

が前提だが、再処理工場の目途がたらず核燃料サイクル計画は破たんしている、核廃棄物の処理方法は確立していないなど、適切な指摘ばかりである。住民投票条例を求める署名運動が行われている最中であり尊重すべき」と述べ「原発事故のリスクはゼロではない」と規制庁自身が認める中、放射線の被害が何世代にも及ぶ甚大なものであることを考えると、立地自治体の議会としては陳情に対しても慎重な姿勢が求められている」と拙速な採決を批判し「議会全体として委員長報告に反対を」と訴えました。

意見聞く場にならず 原発住民説明会 たちばなふみ市議一般質問②

たちばなふみ市議一般質問での原発再稼働問題で2つ目の論点住民説明会の問題点について報告します。たちばな市議は、4回開催



一般質問にたつ たちばなふみ市議

の県市共催の説明会で市民から出た意見や質問は「30キロ圏の避難計画で十分なのか」「原発事故のリスクはゼロではない」「地震は予測できない」などと、心配や不安、そして稼働すべきでないとの意見が大半だと指摘。また住民説明会は申込みが必要であり、本人確認書類持参の厳格なものであり「説明されたことへの質問しか受け付けない」「質問時間は1分以内」で、参加者の意見聴取の場には、全くなっていないと主張。市長は「できるだけ多くの市民の方からご意見を伺う機会を

設けたい」と9月議会で答弁しており、そのことを確認した質問に対し、「追加の説明会は開催しない」との答弁でした。

たちばな市議は「ホームページでの意見募集も周知が不十分。住民投票で賛否を示そうという運動も始まっている。再稼働への同意は100年原発と共存しなければならぬことを意味する。市民は常に事故の不安と背中合わせで暮らすこととなる。未来に希望ある松江と原発は共存できない。じっくり市民の声を聞いて判断を」と訴えました。

外来種ミシシッピアカミミガメ防除への支援について 舟木けんじ市議一般質問②

舟木けんじ市議は11月議会一般質問で、外来種ミシシッピアカミミガメ防除への支援についてとりあげました。国が緊急対策外来種に指定



一般質問にたつ舟木けんじ市議

するミシシッピアカミミガメの捕獲防除にとりくむ市民団体「まつえワニの会」は、今年5月から「自然公園の魅力アップ事業」の委託を受け2340匹を捕獲。しかし10月末で事業が終了し今後の活動が見通せない状況にあります。代表の遠藤さんは「アカミミガメの駆除は継続的に行わないとすぐに増えてしまう」「行政が本腰を入れて取り組まないと課題」と訴えています。

花形泰道環境保全部長は、「令和3年度は『まつえワニの会』が積極的に活動され、令和2年度を大きく上回る数のミシシッピアカミミガメを捕獲された。捕獲作業にあたってのご苦労に対し心から敬意を表したい」「令和4年度の対応については、現在、県と『まつえワニの会』とで協議を行っている」と伺っている。

外来種防除の活動が続けられるよう、引き続き行政による積極的な支援を求める要望が上がっていますが、松江市

「本市としては『まつえワニの会』および県との従来からの役割分担に基づき、引き続き「処分」を担っていく」と答弁しました。